



# やらまいか

クラブテーマ：スマイルロータリー、新時代へ進化

会長／太田 稔 幹事／池田 弘 会報委員会／乙部享祐・杉浦和人・原田浩史

例会場／毎週火曜日 12：30 豊川商工会議所 事務局／豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内

Tel.0533-86-2535 Fax0533-86-8889 HP：<http://toyokawahoi.tank.jp/>

本年度第31回 通算1752回 2024年4月23日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	4/9 修正出席率
		73名	33名	52.4%	73.3%

ゲスト：(なし) ビジター：(なし)

# 職場見学例会

## グレイブパークコート



## ★会長あいさつ

### 太田稔会長



こんにちは。今日は火曜日ですが、新聞を配達したら、厚いなどと思ったら、今日は名古屋の中日ビルがオープンで、広告ばかり入っていました。

今日の新聞に豊橋でカモシカを目撃の記事が出ていました。先週の木曜日に葛城のほうにゴルフに行ったんですけど、その時にもカモシカがいました。その時にスマホで撮りましたが、すぐにそんなニュースがあったんで、天然記念物のカモシカがこの辺にウロウロしてるのかなと思います。新聞読むと、保護をしてきたので数が増えていると書かれていました

先週水曜日に三遠ネオフェニックスの中地区優勝が決まったということで、優勝報告の試合に行かせて頂きました。大沢パスト会長いろいろありがとうございます。僕は翌朝が早いので最後のセレモニーいることができず申し訳ありませんでした。当クラブの皆さんもご出席いただきありがとうございました。

今日は職業奉仕委員会の担当で、このグレーブパークコートさんでやります。職場例会は今年3回目です。竹本委員長さん大変ご苦労様です。最後にバスケットボールの体験もできると言うことなので皆さん怪我のないように宜しくお願いします。

## ★幹事報告

### 池田弘幹事

例会臨時変更のお知らせ  
例会休会について  
次回例会の春の行楽について

## ★職業奉仕委員長あいさつ 竹本裕一委員長



今年3回目の職場見学例会です。今日は、乙部さんグレーブパークコートへお邪魔いたしました。ここは、ZIP-FM のナビゲーターの小林

拓一郎さんの土地だそうです。元々はブドウ畑だったそうです。最初は手作業で始めて、今はこんなに立派なコートになっています。まさに豊川のお宝の一つではないかと思います。終わってからバスケットを体験できますので、日頃の運動不足を解消してお帰り下さい。

## ★乙部享祐会員あいさつ



本日はグレーブパークコートにお越し頂きましてありがとうございます。とにかく天気だけが心配でした。今日は曇りで暑すぎず良かったのか

などと思います。

ここは、私が中学時代にバスケットをやっている、バスケットボールや場所がないと言うことで、大人になってから子供たちのために使えるバスケットコートと言うことで共同代表の小林拓一郎と一緒に作ったコートです。後ほど、拓一郎から音声メッセージの挨拶もしますので、そちらの方をお聞き頂きたいと思います。簡単ですが、どういう経緯で作ったかも言っておりますので聞いていただければと思います。

また、終わってからお時間の許す方は、通常メニューのご注文も頂けますので、良かったらゆっくりしてください。今日はありがとうございました。

## ★小林拓一郎さんからのメッセージ

皆さんようこそグレーブパークコートへ。グレーブパークコートのオーナーであり、共同代表である小林拓一郎です。普段は名古屋にあるラジオZIP-FMと言うところでナビゲーターをやっております。なので、この声聞き覚えのあるって言う方、普段ラジオ聞いてくれてありがとうございます。また、ZIP-FM 昼 11 時半から 2 時まで get ready という番組やっていますので、平日よろしかったら聞いてみてください。



今皆さんのいるこのグレーパーは、このカフェのある端からバスケットコートの端の方から駐車場の端の方まで元々はぶどう畑でした。僕の母親に聞いたところ、僕が生まれる 1 年前 1978 年にうちの母が嫁いだときに、おじいちゃんがこの土地を買って、そこからぶどう畑として耕したそうです。うちは兼業農家だったので、父親は岡崎市役所に勤めながら、週末にちょっと農作業手伝って言う感じだったんですけど、うちの母親は農家の出ではなかったんですけど、農家に嫁いだと言うことで僕が小学校 3 年生 4 年生位からですかね、おじいちゃんおばあちゃんの農作業を手伝うようになって

て、最初は嫌々と言うところもあったんでしょうけれども、だんだん本人が凝り性の性格もあってのめり込むようになり、最終的にはおじいちゃんおばあちゃんのやり方をちょっと自分で変えながら、本当に美味しい巨峰を作ると言って、実際本当に甘いおいしい種なし巨峰を作っていました。2015年ぐらいの母親が還暦を超えるぐらいまで作っていたと思います。

このぶどう畑も2018年頃にはぶどう畑もやめて、耕作放棄地みたいな形になっていました。その時にうちの父親が心臓の病気で亡くなってしまいました。急なことでした。1ヵ月前まで一緒に家族旅行してアメリカ行ったりとか、1週間前も京都旅行したりとか、ほんとに元気だと思っていた父親が急に亡くなってしまって、この土地どうするってことで、急遽相続の問題が出てくるわけですね。もちろん悲しみに暮れる中だったんですけども、この土地をどうするってなったときに、耕作放棄地だったし手放すかと言う話になっていたんです。農地だし売っても二足三文しかならないけど、持っていても仕方がないねって言うていたんです。その時、僕が39歳40歳を迎える直前で、ずっと心の中に抱えていた夢というか、やりたいことがありました。それが何かと言うと、誰もが自由に使えるバスケットコート作りたいって言うものだったんです。なぜそんなふうにしたかと言うと、中学からバスケットを始めて、それまで自分の中で熱心になって何か取り組めるもの、絵が好きだったので漫画家になりたいなぐらいな感じで絵を書いたりしてたんですけども、なんかそこまでほんとに真剣にのめり込めるものっていうのが少なかったんですね。中学校に入って、心からこの人の友達だと思える友達もできなかったりとか、どちらかと言うと悶々とした小学校時代を過ごしていて、そんな中でバスケットと出会って、そこから自分の人生がほんとに変わってきました。なので、その時にバスケットって言うものを学校以外でももっともっとやりたいと思ったんです。部活だけじゃ上手くなれないから、もっともっと上手くなりたいと思ってバスケットをやれる場所を探していたんですけども、皆さんご存知のようにそういう場所は無いわけです。特に豊川豊橋には、そのように場所はありません。あるとしても公園に小学生の高さのゴールがあって、下は土でリングにはネットもかかっていなくて言うような状況でした。当時はまだ小学校とかも忍び込むことができたので、夜忍び込んだりしてシューティングやったりとかしていましたけど、それでも真っ暗の中ではよく見えないとか、木に向かってゴールを見立ててシューティングの練習をしたりとかってそういう状況でした。いつか誰もが使えるバスケットコートができ

たらいいなってことを思っていました。当時の自分の夢はプロバスケット選手になるという夢を抱えながら、僕は留学をします。本当にバスケットが大好きすぎて留学したんです。留学中はさすが現実を目の当たりにして、この夢は叶わないと言うことで違う夢を探したときに、そこで出会ったラジオというものがあったんです。こうやって振り返っていくと、自分の人生は中学校の時にバスケットに出会えたことで大きく変わっているんです。あの時バスケットに出会えてなかったら留学って言う選択肢もなかったし、留学って選択肢がなかったらラジオDJになるって言うそんな選択肢もなかったわけですね。すべてのきっかけがやっぱりあの時のバスケットへの熱心な想いだったんです。ていうのを親父がなくなったときに、僕の中の自分の原点をたどって行ったんですね。悲しみとともに自分の中でも色々と気持ちを整理する言語化するって意味でも色々と振り返っていたんです。そしたらやっぱりこのバスケットへの恩返しをしたいって言う気持ちがふつふつと湧いてきました。そこで、せっかくこんなバスケットコート一面建てられるような大きな土地が自分に残っていて、これが今、目の前にあってそれを売ろうとしているってことに對して、ちょっと待ってくれと母親に言いました。その時は、まだいくら掛かるかもわかんないし、どんなものになるかもわかんなかったですけども、「お母さんこの土地を僕に譲ってほしい」と言いました。「何するの?」「バスケットコートにしたい。誰もが自由に使えるバスケットコートにしたい」って言うことをその時に伝えました。うちの父親母親はすごい仲が良かったからものですから、母親は父を突然亡くしてほんとに悲しみに暮れていたんですけども、ちょっとその時に少しだけ明るい表情をしたんですよ。なんか先を見るってやっぱり大事なことだなあとあって、前を見るプロジェクトとしてこれも始める良い意義なんだなって思いました。

とにかくやれることからやっつけていこう。そこで母親が承諾してくれて譲り受けました。まず何やったかって言うと、土地の四方にぶどう畑の名残りでコンクリートの柱が何本も刺さっていました。200本ぐらい刺さっていました。ぶどうの畑ってワイヤーを吊るして、そのワイヤーの上にツタをはわせて、ぶどうの実を垂れるように成長させる。そのワイヤーを貼るためのコンクリートの柱で、それをまず抜かないことには始まらないなと思ってここから始めました。その時に義理の弟が手伝ってくれて、2人でグリグリグリやりながら抜きました。1本抜くの2時間ぐらい掛かり、汗まみれになりながら、ようやく1本抜きました。これ200本抜くの2時間ぐらい時間がかかるんだらうって、ちょっと途方にくれました。た

だこれも、ただやるだけじゃもったいないなあと思って、ブイログみたいにしよと言うことで動画を撮りました。弟に撮ってもらって、その動画を SNS、Twitter、Facebook、Instagram にあげたんですよ。そしたらね。意外なことに結構反響を呼びまして、「何やっているんですか?」「僕は誰もが自由に使えるバスケットコート作りたんです」って言う素直な思いで言ったら、「面白そうなので手伝います」って言う声が上がったんです。手伝いますって言ったって、僕はそんなお金があるわけじゃないから、御礼も支払いませんよってことだったんですけど、「そんなのいらないです。なんかそんなもの作るんだったら手伝いたいです」って言う声が上がったんですね。それで当時 Twitter だと不特定多数の方が来て誰かわからないって言う状況がちょっと怖いなと思ったんで、Facebook でお友達になっている方だけに声をかける形でやったんですね。そしたら 7 人集まってくれて、そこから 3 人寄れば文殊の知恵じゃないですけど、このようにテコの原理で抜けば抜けるんじゃないですか、なんて言いながらやっていて半分ぐらい抜けました。そして、これもう一回やれば全部行けるなという言うタイミングで、その時の 7 人の動画を YouTube にあげました。そしたらそれをまた見てくれた方々がまたさらに手伝いたって言うてくれました。その中には、豊川為当の市川造園さんの社長の市川さんから Facebook Messenger のほうにメールをくれて「あなたやってること見えています。これは人力でやるものではないので、良かったら重機出しますよ」って言うてくださのですが、僕はお金があるわけじゃないので言ったら、「いや違うんです。あなたが豊川のためにこういったものを作ろうっていう。そこに感銘を受けたんです。それを見ていて見て見ぬふりなんかできない」ってことで、わざわざ自分の名刺までそこに添付して下さって、それでは是非一度来て下さいってことになりました。お友達のコンボと合わせて 2 台、さらに 30 人の人が集まりました。これって、自分のバスケットへの恩返しという思いだったけど、地元豊川への恩返しでもあるんだなって言うもう一つの柱ができていきました。

義理の弟とやっている動画を見て 1 番初めに反応してくれたのが、そこにいる共同代表の乙部です。彼とは中学校からの友達です。彼は中学で熱心にバスケットやってたって感じではなかったですけども、大人になってから自分たちでサークルみたいな形でバスケットをやるようになって、自分の中でもみんなが使えるバスケットコートを作りたくなって言う漠然とした思いがあったみたいです。そんな中で僕のこの活動を見て手伝うっ

て言うてくれて、乙部が家族で手伝ってくれました。そこから僕が表に出る仕事、人に伝えるって仕事をやってるので、その伝える仕事は僕がやって、いわゆるお金の管理だとかそういう裏の仕事を乙部がやるって言う形で 2 人でやるってことで、共同代表で今このグレパーを手掛けています。ほんとこれ話すと 1 時間 2 時間あっても足りない位めちゃくちゃいろんな話があるんです。ここがもともとぶどう畑だったということで、この名前はグレープパークコートという名前です。

最初に掲げた誰もが自由に使えるバスケットコートです。今は経営をしながら色々問題にもぶち当たってきます。最初はほんとに自由にみんなにやってもらっていたんですけども、自由を吐き違える子たちもたくさんいました。遊びに来ては挨拶もしない、コンビニで買って来たゴミをそのままそこに放置していくとか、ちょっとやんちゃな子たちは年齢的にやっちゃいけないことをやっていたりしました。あとは音の問題でクレームを頂くこともあったりしました。そういった問題も一つ一つちゃんと話し合いながら今解決していています。そんな中で色々最初に掲げた誰もが自由に使えるバスケットコートっていうのは、僕の中で性善説ってわけではないですけど、使ってくれた人たちはこの環境って当たり前じゃないじゃないことを理解してくれて、例えば今そこに皆さんがいらっしゃるカフェがあるので、何か 1 杯ぐらい飲んでくって言う気持ちになるかなって思っていたんです。けどどうやらそうではないって言うことがわかって、最近ちょっとだけコンセプトを変えました。大人の皆さんにはドリンク 1 杯必ず頼んでもらっています。子どもたちが自由に使えるバスケットコートとして、このグレパーを手掛けていこうと言うふうにならなくなって変えました。子どもたちはお小遣いで生活しているので、毎回毎回ドリンクってなると、彼らにとって結構大変なものになってしまいます。その代わりに大人たちがその子どもたちに自由にバスケットやれる環境ってというのは与えてあげようって言うそんな思いです。そして利用される方だけではなくて、コートの外のフェンスの部分の柱、駐車場に大きな看板など各スポンサーの皆様にご協力いただいております。フェンス柱、ゴール裏など、ほんとに多くの皆さんに協力してもらっていて、こういう形で今成り立っています。

僕の中では、最初に言いましたバスケットへの恩返しの思い、そして地元豊川市への恩返しの思いが強いです。今ここで遊んでいる子供たちは、ただただほんとにこの今この環境を享受すればいいって思っています。ここに来てほんとに純粋にバスケット楽しんでもらえたらいいなと思います。最近では自転車で遠くから来

てほんとここでバスケやるのが楽しいですって言ってくれる。そんな声をたくさん頂いたり、毎日土曜に来てくれるお子さんがいたりとか、ほんとにそういう彼らを見てると心から嬉しくなるんです。ただ彼らが彼女たちが大人になったときに、この環境って決して当たり前じゃなかったんだなって事はどっかで気づくと思うんです。で、僕やその今支えてくださっているスポンサーの皆さんだったり、利用者の皆さんっていうのは、こういう形でバスケや地元への恩返しをしているけども、じゃあ今度は彼らが彼女たちがどういう形でそれを世代を超えて次の世代にバトンタッチをしていくのかって言うところなんかどっかで感じ取ってくれて、彼らなのか彼女たちなのかの答えを出してもらえたらいいなって思っています。

このグレパーを支えて、このバトンと一緒に渡す役の仲間をまだまだ募集中です。ぜひ皆さんの中でも仲間になってもいいよって言う方がいらっしゃったらご協力よろしくお願ひいたします。それではこの後も引き続きグレパーゆっくりとお楽しみください。小林拓一郎でした。ありがとうございました。

### ★大沢茂樹パスト会長あいさつ



今年はバスケ関連の例会を何度もやって頂いて本当にありがとうございます。このコートがあることは乙部君から聞いてはいましたが、今日ここにきてビックリ

しました。駐車場もちゃんと整備してあって、素晴らしい施設だと感動をしました。今の小林拓一郎さんのメッセージも感銘する内容でよかったです。バスケでこの東三河がどんどん輝いていく様子を私も夢見てる一人です。これから大いに楽しみにしたいというふうに思っています。

先週水曜日に中地区での優勝したことを披露するために豊橋の体育館での試合後に優勝報告をしました。

### ★バスケ体験



### ★第4回ゴルフ同好会コンペ

4月24日にゴルフ同好会コンペが開催されました。

コンペ成績		GROSS	HDCP	NET
優勝	足立憲昭	97	25	72
準優勝	来山健一	75	1	74
3位	笠原盛泰	91	13	78
ニアピン	加藤哲山	来山健一	林博宣	足立憲昭
ドラコン	来山健一	乙部享祐	池田弘	足立憲昭



会報担当：乙部享祐・杉浦和人・原田浩史